

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-820	16-063	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳) Smoking and alcohol behaviours in people following hip and knee arthroplasty: Data from the Osteoarthritis Initiative. 股関節および膝関節形成術後の喫煙と飲酒行動について : Osteoarthritis Initiative データより		
執筆者 Smith TO, Penny F, Fleetcroft R.		
掲載誌 Orthop Traumatol Surg Res. 2016 Apr;102(2):239-45. doi: 10.1016/j.otsr.2015.12.005.		
キーワード		PMID
飲酒、喫煙率、合併症、関節置換術、死亡率、喫煙率		26867709
要 旨 目的： 喫煙と飲酒は健康全般にとって悪影響を及ぼす。関節形成術前と術後 12 ヶ月の喫煙や飲酒行動がどのように変化するかについての根拠は限定的である。本研究では、喫煙・飲酒行動は人工股関節置換術 (THA) および人工膝関節置換術 (TKA) の前後で異なる、さらに、関節形成術を受けた集団と受けない集団で異なるという仮説のもと検討を行った。 方法： 米国における集団ベースの観察研究である Osteoarthritis Initiative (OAI) のデータを用いた。THA または TKA を受けた 287 人を術前から 48 ヶ月フォローした。また、THA・TKA と性年齢をマッチさせた関節形成術を受けていない 287 人を対照群として比較した。喫煙・飲酒の術前後の変化の平均値および関節形成術有無の差について、記述的に評価するとともに、ウィルコクソンの符号順位検定あるいは Student t 検定を用い比較した。 結果： 生涯喫煙率 (今までに喫煙したことがあるもの) は THA (99%)、TKA (96%) で高かった。THA および TKA では、関節形成術後 12 ヶ月時点での現在喫煙者は 5% から 3% に有意に減少した ($p < 0.05$)。同様に、THA および TKA 後において 1 週間当たりの飲酒量も有意に減少した ($p < 0.01$) が、平均値の差は僅か 0.9 drink/週であった。THA・TKA 群と対照群 (関節形成術を受けていない群) で有意差を認めたのは 1 週間当たりの飲酒量のみであり、対照群の方が THA・TKA 群より 0.3 drink/週多かった ($p = 0.04$)。 結論： 喫煙率と飲酒量は、THA および TKA 後 12 ヶ月で減少した。これらは良い結果である一方で、関節形成術後、飲酒や喫煙に関して依然として不健康な生活習慣の選択している患者も存在していることが分かった。		